

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



1
2020

VOL. 172

開祖随感

仏の子の自覚

仏性^{かいけん}開顕と簡単にいいますが、どうしたら仏性を開顕できるのかです。

まず、「私は仏の子だ」と自分に言い聞かせて、心からそう思い込んでしまうことです。すると、もう怠けてなんかいられません。腹が立ったなどと、ふくれていられるわけにもいきません。

心理学のある先生が、「善い結果を考えると善い結果が、悪い結果を考えると悪い結果がもたらされる。潜在意識が、心に思った結果につながるチャンスをつかえるからだ」と言われています。

「外相^{げそう}を整えれば、内証^{ないしやう}おのずから熟す」という言葉があります。森田療法という、神経症の治療法の創始者である森田^{まさたけ}正馬さんが用いた言葉ですが、装いを整えて威儀を正すと、それだけで「みっともないことはできないぞ」という心になってくるものなのです。

「私は仏の子なのだ」という自覚を持つと、どんな無理なことを言う相手に対しても、笑顔で、「この人にも教えを分かってもらわなければ」という慈悲心で接することができるようになってくるのです。

(『開祖随感』9, P. 208-209)

Living the Lotus 2020年1月号 (Vol.172)

【発行】立佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 鈴木健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

ほんとうの自分に帰る

立正佼成会会長 庭野日鏡



一年をどうすごすか

新年、おめでとうございます。

初春にふさわしい、次のような歌があります。

「かたちなき時間といへど一年が ゆたけきままにわが前にあり」(佐藤佐太郎)。新たな年を迎えた私たちの前には、まさに豊かで、まっさらな「時」が広がっています。

そして、この一年を真に豊かなものにするのは、ほかでもない、私たち自身です。日々に出会う人やものごとは、すべて、自分が因となり、縁となって生じているものです。さらにいえば、遠い世界のできごとさえも、自分と無縁のことは一つもないと受けとめれば、どのような一年にするかは、すべて自分にかかっているといえるのです。

それはまた、一年をかけて自分をどのように成長、進化させていくかということでもあるでしょう。

さて、法華経の「授学無学人記品」は、釈尊が一子・羅睺羅や、侍者としてつねに付き随う阿難に対して、「必ず仏になれる」という授記を与える章です。羅睺羅の授記に際して、釈尊は「羅睺羅の密行は 唯我のみ能く之を知れり」と称えています。仏教学者の増谷文雄先生は、羅睺羅について、舍利弗のような智慧に恵まれているわけでもなく、富楼那のように雄弁でもなかったけれど、「彼を見守る人々の苦心と、彼じんの必死の努力によって、密行すなわち教団のさだめを守ることにいっては、もっとも綿密な修行者」にまで成長したと述べています。

舍利弗や富楼那のような智慧や才能の持ち主を尊敬する一方で、特別な才に恵まれていなかった羅睺羅に対して、共感を覚えるのは私だけではないと思いま





す。そして、私たちが自身の成長や進化を考えるうえで、羅睺羅の努力とはどのようなものであったのかも気になるところです。

素直に、謙虚に

釈尊の教団では、年齢や俗世間での立場とは関係なく、出家してからの年数が長い人から先に、修行場所(寺院)の部屋を使うことを許されるという決まりがありました。

釈尊や羅睺羅が、祇園精舎ぎおんしやうじやに滞在していたときのことです。羅睺羅よりも先輩の修行者たちが、精舎こころよに到着したのです。羅睺羅はすぐに快く先輩たちに部屋をゆずりましたが、自分の寝床がありません。そこで羅睺羅は、やむをえず釈尊きよしつの居室の前で休んだといわれます。

また、あるときには、羅睺羅を釈尊の子と知った人から、托鉢たくはつの鉢はちに砂を投げ入れられ、頭を殴られたとも記されています。それでも羅睺羅は、じっと堪え忍んだそうです。

「密行第一」が、羅睺羅に対する尊称そんしやうです。しかし、そう称えられたのは、舍利弗をはじめとする先輩たちの指導や助言を素直に聞き、謙虚になって、人が見ていないときでもひたすら教えを学び実践しつづけたからだ、私は思います。釈尊の長男として生まれ、世俗にあったときには、父である釈尊に「王宮の財産を私にください」と語った羅睺羅が、出家して法つを継ぐことが人生の大事だとわかったときから、身を慎みつつし、つねに「素直であろう」「謙虚であろう」と心して、ただただ静かに精進しやうじんを重ねる姿勢が、「密行」、つまり羅睺羅の努力だったと思うのです。

そこには、財を貪むさぼる心も、自分の境遇くわいを恨む思いも、釈尊の肉親であることを驕る気持ちもありません。「密行」を重ねるなかで、羅睺羅はすべての人が生まれながらに授かっている仏性ぶつしやうの有り難さにめざめ、貪どん・瞋じん・痴ちなどの煩惱ぼうのうを離れた、「ほんとうの自分」に帰ったということです。

そしてだれもが、その真実の自分に帰ることができます。お互いさま、素直さと謙虚さを忘れず、一日一生のつもりで、精いっぱい明るく和やかな一年にしていましよう。

(『佼成』2020年1月号)





人さまの心の声に耳を傾けて

台南教会
陳安希

この体験説法は2019年11月9日に台南教会で行なわれた開祖さま生誕会で発表されたものです。

開祖さま生誕会の佳き日にお説法のお役をいただき、誠にありがとうございます。

私は2007年に入会しました。しかし、はっきりとした理由は今もわかりませんが、その後しばらくして導きの親が佼成会をやめてしまったのです。私は入会后まもなく導きの親と一緒に本部参拝に参加しましたが、第二回参会館に宿泊中、私が彼女のバッグから千円盗んだと言って大騒ぎになりました。それが導きの親が佼成会をやめた理由かもしれません。私は、自分がやめてしまったら疑われたままになると思い、やめませんでした。それから数年後、再び似たようなできごとが起き、そのときも疑いの目を向けられましたが、いつかは真実が明らかになるはずと信じ、そのために佼成会をやめたりはしませんでした。

その一方で、私は佼成会の教えをしっかりと学びたいと思っていました。しかし疑問に思ったことを人に尋ねても、答えてくれる人は誰もいませんでした。そのため、『法華経の新しい解釈』を読むなど、独力で学ん



台南教会で説法する陳さん

でみようとはしたものの、自分の身に起きたことを教えに結びつけて理解するまでには至りませんでした。昨年、新たに着任された廣瀬幾代教会長さんから、常不軽菩薩の仏性礼拝行について何度も教えていただき、また『法華経の新しい解釈』の内容も解説していただいたことで、以前より教えが理解できるようになりました。それでも、まだ納得できないことが心に残っていました。

私はその後、主任のお役をいただきました。その半年後の昨年10月、まだ主任のお役をしっかりと理解できていない私でしたが、教師資格を拝受するお手配をいただきました。しかし、教師拝受式に先立って東京の台東教会で行なわれた布教実習を通して、具体的に主任のお役を理解することができ、また人の手をとることの意味にもしだいに目が開かれていく思いがしました。

教師拝受式で行なわれた唱題修行の最中、太平洋戦争で亡くなった祖父がなぜか目の前に現れ、涙が止まらなくなりました。祖父は海底に沈んだ檻の中に閉じ込められているように見えました。唱題修行のあとのかみしめ法座で齋藤高市国際伝道部長さんに結んでいただくと、「教師資格を拝受して、これからは陳主任さん自身が自分の枠を乗り越えていくことが大切だと思いますよ」と教えてくださいました。とてもありがたいご指導をいただき、台湾に戻ったら生まれ変わったつもりで精進をさせていただくことをお誓いしました。

祖父は戦争中、日本軍に徴兵され南方で戦死した

そうですが、いつどこで亡くなったのか不明のままです。帰国前に靖国神社を訪ね祖父のことを調べてもらおうとしましたが、私が提供する祖父に関する情報があまりにも少ないため無理だと言われました。仕方なく神社の連絡先を書き留めて帰国しました。

以前から教会長さんに、祖父や先祖のお戒名をいただくようにご指導をいただいていたのですが、この方にもあの方にもお戒名をいただきたいと希望だけが増えていき、結局申請書を出せないままでした。そこで帰国後すぐに申請させていただくと、「教師資格を頂戴したのだから、自分でおつけなさい」とご指導をいただきました。こと細かにお戒名の付け方を教えていただきながら、生まれて初めて祖父のお戒名を付けさせていただきました。そして、その日のうちに戸籍謄本を靖国神社に送りました。すると驚いたことに、3週間後、祖父がいつどこで亡くなったかを知らせる手紙が届いたのです。手紙には、祖父は海軍に所属し、35歳の若さでフィリピン近海で亡くなったと記されていました。お戒名をいただき、ご供養をさせていただくことの意味を実感した瞬間でした。同時に、なぜ唱題修行のときに祖父の姿が目の前に現れたのか不思議に思い、その理由をよく考えてみました。そして、まだ幼かった私の父を残して戦地で命を落とさねばならず、その後70年以上ものあいだ誰にも発見されずに海底に沈んでいた祖父のことを考えたとき、なんて我慢強い人なのだろうと思いました。そして、祖父がじっと耐え忍んできたその姿こそ、今の私に必要なことに気づいたのでした。

私は盗みの濡れ衣を着せられたことにこだわり続け、導きの親を許せずにいました。しかし祖父について

知ることで、私に起きたできごとは、私が忍辱行の大切さを学ぶために、仏さまからいただいたおはからいだったのだと思えるようになり、なぜかそれまで味わったことのない解放感に包まれました。また、教師拝受式で日本に発つ直前、バイクで走行中に転倒したことを思い出しました。幸いケガはなかったのですが、その場所は私の導きの親が住むマンションのすぐ近くだったのです。そのとき、「そうだ、教師資格をいただいたのだから、このご法に縁を結んでくださったご恩に報いるために、今度は私が導きの親をお導きさせていただきます」と思えたのです。そして直接会ってお話をさせていただきたいと思い、何度かマンションを訪ねてみましたが、チャイムを鳴らしても私だとわかると決してドアを開けてはくれません。どれくらい時間がかかるかわかりませんが、これからも諦めずに繋がっていきたいと思っています。

翌月の11月は、支部長さんご夫婦が海外に行かれて1か月間お留守だったため、私は毎日教会に行きご供養のお役を務めました。ほとんど毎日読経供養の導師をさせていただき、法華三部経全巻を読誦することができました。最初は自分に導師を務まるかどうか不安でしたが、最後はとても大きな感動をいただきました。そして誰にも無限の可能性と仏性があり、誰もが仏さまと同じ智慧と徳相を具えていることを実感しました。さらには、多くの人にそのことに気づいていただき、本当の幸せをつかんでいただくことが重要なことも、とてもよくわかりました。

昨年は長年教会を支えてくださった邱節子さんが亡くなり、台南教会で初めての佼成会葬をさせていただきました。そのときの感動は今も忘れられません。

私は邱さんから人間としてどう生きていくことが大切なのか学びました。邱さんのご霊前で、苦悩している方々にこちらから寄り添い、耳を傾け、ご法をお伝えさせていただくことをお誓いしました。

また、昨年9月には、教師拝受式の直前に大先輩のLさんのお嫁さんをお導きさせていただくことができました。Lさんは日本語が堪能で、歴代の日本人教会長さんの通訳を務めるとともに多数の翻訳を手がけ、『中国語版台南佼成』を発行し、教会に多大な貢献をしてくださった方です。現在94歳で、6年ほど前に脳の病気に罹ってあまり話すことができなくなり、車椅子生活になりました。そして2年前、会費などを預かった会員さんと息子さんたちとの間で誤解が生じ、本人が知らないうちに退会扱いになっていました。Lさんご本人は言葉に出せなくても、大好きな佼成会との縁が切れてしまったことを悲しく思っていたらしく違いないと思いました。仕事の関係で、Lさんの亡くなった次男のお嫁さんとは面識がありました。Lさんのお世話をされているのはこのお嫁さん一人で、彼女は佼成会に対しても、亡きご主人の兄弟たちに対しても様々な不満を持っておられました。お嫁さんに会うたびに、精いっぱいお話を聞かせていただきました。それから1年半後、彼女は私のことを信頼して入会してくださいました。教師拝受式から帰国してまもなく、彼女の実のお母さまが亡くなりました。真心でご供養させていただこうと、すぐに彼女の実家がある高雄に行き、廣瀬教会長さんにご指導をいただいて、亡きお母さまのお戒名を付けさせていただきました。そして、彼女の実家に集まっておられた20人もの未会員のご親族の前で、教会長さんと一緒に佼成会のご供養をさ

せていただくことができ、彼女はそのことを大変喜んでくださいました。

それから1年後の今年9月、今度はLさんの実の娘さんをお導きすることができました。実のお子さんたちは佼成会のことを嫌っているとお聞きしていたのですが、ぜひお導きさせていただきたいと思い、光祥さまがおっしゃったように「まずはやってみよう」を実践してみました。すると、お子さんたちは必ずしも佼成会を嫌っていたわけではないことがわかりました。そして実の娘さんは、ご主人の亡くなられたお父さまの供養のために入会してくださいました。彼女から、亡くなった実のお母さま、つまりLさんの奥さまのご命日には兄弟姉妹全員が集い、食事会をすることをお聞きしました。母親への深い思いや親孝行の実践、そして兄弟姉妹が仲良く集う姿こそ佼成会の教えそのものだと思いました。そして、この親孝行の奥にある仏性を礼拝していけばよいのだと気づかせていただきました。

今年の10月にはお会式本部参拝があり、参拝のあと布教実習で訪れた秋田県の大館教会で山本恭代主任さんと出会いました。山本主任さんのお舅さんである山本貢市さんは、台南教会の生みの親である大槻定央さんと共に、何度も台南教会を訪れ布教してくださいっていたそうです。山本貢市さんは3年前に亡くなられましたが、亡くなる直前まで直接連絡の取れなくなった台南の会員さん方のこと、特にLさんのことをとても心配なさっていたそうです。山本主任さんご自身は台南教会を訪れたことはありませんが、お舅さんから何度もお話を聞いてとても身近に感じていたそうです。そして、お舅さんが亡くなった後も、Lさんからの手紙などを遺品として大事にしまってくださいたい

て、実際に私たちにを見せてくださいました。それは美しい日本語で書かれた手紙でした。山本貢市さんは、晩年もしさんに何通も手紙を出しておられたそうですが、やがてまったく返事が来なくなったそうです。そして、あるときしさんの息子さんから電話があり、父は病気なのでもう手紙を送らないでほしいと言われたそうです。悲しみに暮れながら、しさんがどうしているか気かけ、さらには現在の台南教会のことを心配しながら亡くなったそうです。山本主任さんからこの話を伺い、私は本当に心を打たれました。何十年も台南教会のことを思い続け、ご自分が亡くなった後もお嫁さんたちにその思いを託された山本さんのことを思ったとき、私がこの2年でしさんのお嫁さんと実の娘さんをお導きできたのは、山本さんが霊界から私を応援してくださっていたお陰であることを知りました。帰国後、早速このことをしさんの娘さんにお伝えしました。

佼成会の素晴らしさは、サンガの温かさと優しさにあると思います。初めて参拝させていただいた大館教会でしたが、まるで嫁いだ娘が実家に帰ってきたように、温かくてほっとした気持ちにさせてくださいました。台東教会でも同じように感じました。一方、台南教会はまだそこまでは至ってはいません。しかし、まず私から一人ひとりの信者さんの気持ちに寄り添い、その声に耳を傾け、共に救われることを願いながら、ふれあっていけばよいのだと気づいたとき、迷いが吹き飛ばす思いがしました。

今年私は、交通事故で息子さんを亡くしたご夫婦をお導きさせていただきました。今は深い悲しみと加害者を許せない気持ちでいっぱいのお二人の気持ちを聞かせていただくことだけで精いっぱいです。息子さ

んのお戒名をいただき、ご供養もさせていただきましたが、まだ仏さまの教えをお二人に聞いていただくまでには至っていません。しかし、海底で70年もの間じっと我慢をしていた祖父のことを思えば、1年や2年の手どりは何でもありません。私にとって、人さまのお話を聞かせていただくことは、たとえ何時間でも苦痛ではありません。じっくりとお話を聞かせていただくことで、ご本人が気づきを得て、一緒にご法の道を歩んでいけることを心の底から願っています。

今回の大館教会での布教実習では、3日間、他の教会から参加された方と同室になりました。何時間も彼女の話をお聞かせいただきました。彼女は40年にわたって不眠症を抱えていましたが、大館教会での夜の法座で長年の悩みを聞いていただいたその夜から、睡眠薬なしで眠れるようになったそうです。彼女も導きの親が佼成会をやめてしまい、孤児のような思いで12年の歳月を過ごしてきました。教会活動に参加する機会もなかったため、佼成会の教えをほとんど知らないままでした。帰国後、彼女は自ら修行の誓願を立て、菩薩の道を歩み出しています。そのことが、まるで自分のことのようにうれしく思えます。その他にも家族関係の問題で悩んでいる方など、まだまだ佼成会の教えをお届けしなければいけない信者さんがたくさんいらっしゃいます。佼成会をやめてしまった信者さんも大勢います。しかし私は、この教えの通りに行じていけば、誰でも必ず幸せになれると確信しています。これからも開祖さまに倣い、常に笑顔を絶やさず、信者さんと一緒に精進していくことをお誓い申し上げます。

皆さま、ありがとうございます。

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

提婆達多品第十二（後半）

煩惱をどう動かすかで 悪と善が分かれる

ぼんのう
煩惱はすべての人間がもっています。出家の修行者はその煩惱から完全に離れてしまうよう努力しなければならないのですが、普通の生活をしている在家の者にとっては、とうてい不可能なことです。できないことをやろうとするのは、自然の道に反します。そこで、一般大衆には、煩惱に善い方向性を与えることを教えられたのです。それが大乗の道です。たとえば、「金もうけをしたい」という煩惱に、「世の中のためにはたらく」という善い方向性を与えれば、同じようにはたらき、同じように金をもうけても、それが善のエネルギーになるわけです。

だいばだつた
提婆達多は、煩惱をそのまま行動に移しました。それが〈悪〉というものです。ところが、大乗の教えによって煩惱を善い方向へ向ければ、たちまち善をなすことができます。悪人と善人との違いは、ただそれだけなのです。ですから、提婆達多も修行して、その大煩惱を善の方向へ向けかえれば、煩惱が煩惱でなくなってしまっ、ついには仏になれるわけです。このことが、この品の前半から学ぶべき第二の要点です。

次に、後半に移ります。

海底の竜宮での布教から戻った文殊菩薩に、もんじゅぼさつ
智積菩薩がその業績を讃歎し、「海中においてどのような教えを説かれましたか」と聞きますと、「た

だ妙法蓮華經のみです」という答えが返ってきました。さらに「一般大衆の中で、この教えによって、すみやかに仏の悟りを得そうな人がおりますか」と尋ねます。文殊菩薩が「おります。八歳になる竜王の娘が、それです」と答えます。すると、たちまちその竜王の娘があらわれて、お釈迦さまを恭しく礼拝するのでした。

それを見ていたしゃりほつ舍利弗が、思わず口を出して、その娘に向かい「仏の悟りというものは、計り知れないほどの年月、努力して修行を積み、ろくはら六波羅蜜を完全に実践した後、ようやく到達できるものだ。障りが多い女人が、とうてい達しうるものではない」といいました。



娘はそれに答えず、手に持った一つの宝珠^{ほうじゆ}を仏さまに捧げました。それは、三千大千世界^{さんぜんだいせんせかい}にも値するほどの尊い珠でした。仏さまは、快くそれをお受け取りになりました。竜女^{りゆうにょ}は智積菩薩と舍利弗尊者のほうに向きなおり、「仏さまは、わたくしの捧げた宝珠をすぐお受け取りくださいましたが、わたくしの成仏^{じょうぶつ}はそれよりも早いのですよ」といったかと思うと、たちまち男子の姿に変わり、遙か南方の無垢世界^{むくせかい}という所で、仏となって法華経の教えを説いているありさまを現じて見せました。

その光景を仰ぎ見ていた智積菩薩も、舍利弗も、そのほかの多くの人びとも、非常に大きな感動をおぼえ、この出来事を尊い真実として心に深く受け止めたのであります。

女人成仏

どこの国でも大体同じでしたが、昔のインドでは、女性は男性より遥かに劣り、まるで罪のかたまりのようなものとされ、とうてい救いがたい存在であるという牢固たる考えがありました。

そのような女性でも、人間として最高至上の状態である〈仏〉になれるというのですから、《提婆達多^{だいぼだた}品^{ほん}》のこのくだりは、これまた実に画期的な大宣言だったのです。世界の歴史のうえで、男女平等が明らかに唱えられたのは、これが最初だったといわれています。

現象としてあらわれている男女には、そのすがた形・子孫を増やすための役目・性質の特徴・はたらきのうえの差異や得意不得意など、いろいろ先天的



な違いがあります。形のうえではそのように違いのある男女が、それぞれ先天的な特質を生かし合いながら、仲良く家庭をつくり、社会を形成していくところに、ほんとうの男女平等があることを忘れてはなりません。これが、倫理的な、また社会的な、男女平等の道理です。

ところが、そういう道理は頭で分かっても、当時の人びとの心の奥にあった女性蔑視の意識は、なかなかぬぐいきれなかったのです。そこで釈迦^{しやくか}さまは、その道理からもう一步奥へ入って、人間としての本質の平等を、〈仏になれる〉というこの上ない保証によってズバリと明らかにされたのです。いいかえれば、「男女にかかわらず、すべての人間は本来、平等な仏性^{ぶつしょう}をもっているのだ」という思想を、ここで徹底せしめられたわけです。

一つ気になるのは、竜女が女性としての姿で成仏せず、男性の姿に変じて仏となったということでしょうが、これは当時のインドの人たちの心理を考えてみれば、すぐ分かることです。女が男に変じて仏

となるという劇的な表現をすれば、女性蔑視の思想にこりかたまっていた当時の大衆には、たいへん印象的であり、その意味もよく分かるからです。深刻に考えることはありません。

信の力の偉大さ

ところで、竜宮から来た八歳の娘がたちまち仏となる……というのは、舍利弗さえ信じられないことだったので、このことには、次のような教えが込められているのです。

八歳の娘というのは、〈幼子のような素直な心〉を象徴したものであり、竜宮界というのは、中央の文明から遥かに離れた所を象徴しているのです。また、三千大千世界にも値する宝珠というのは、〈信〉ということにほかなりません。

幼子のような素直な心で、仏さまの教えを信ずれば、その瞬間からわれわれは仏さまと溶け合い、一体になることができます。宇宙がわがものになってしまうのです。ですから、〈信〉はたしかに三千大千世界に匹敵する値打ちがあるのです。

その宝珠を仏さまがすぐお受け取りになったというのは、〈信〉があれば仏さまのみ心と瞬時に直結することができるということです。そこに生まれる感応が、成仏への最短通路だということです。

文明が進むと、人びとは、ともすれば、理窟だけで宗教の教えをひねくりまわしがります。理解ということはもちろん大切なことですが、理窟に終始していたのでは、心の奥からパツと悟るというすばらしい回心えしんには、なかなか到達しえません。ところが、竜



宮界の八歳の娘というような、幼く十分な教育も受けていない者でも、無我の心で仏さまの教えを心の底から信ずれば、そのままほんとうの悟りの境地に入れるわけです。

われわれも、仏さまの教えを学ぶにあたっては、いろいろな既成の知識や、固定した観念や、身にこびりついた感情をなげうって、白紙になって受け入れることが大切です。このことを、この《だいぼだつたほん提婆達多品》から次の《かんじほんだいじゅうさん勸持品第十三》にかけての一連の女人成仏物語から、しっかり受け止めなければならないのです。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』

校成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 126-132)

一年をどうすごすか

新年、明けましておめでとうございます。

「一年の計は元旦にあり」という諺があります。ありきたりの一年にするか、有意義な一年を過ごすかは、スタートが肝心です。

会長先生は、今月号のご法話で「どのような一年にするかは、自分にかかっている」と示され、特別な才能に恵まれなかった羅睺羅の密行=素直に、謙虚にただひたすら精進を重ねる——教えを学び実践しつづける——の大切さをお話してくださいました。

仏性の有り難さにめざめ、煩惱を離れた「ほんとうの自分」に帰るためにも、素直さと謙虚さを忘れず、今日一日を精いっぱい明るく和やかに過ごしていきたいものです！

国際伝道部長

齋藤 高市

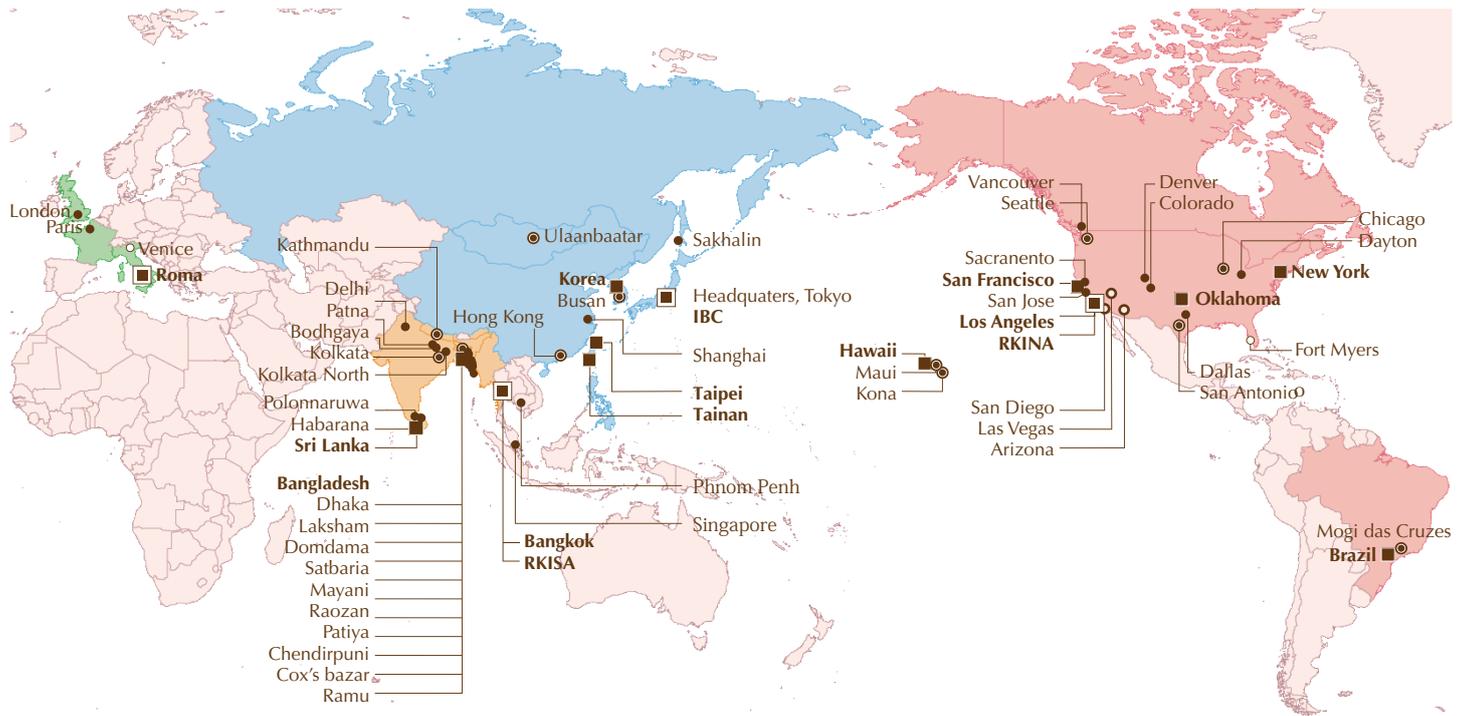


✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
 Email: info@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
 POBox 33636, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
 Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
 POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
 TEL: 1-650-359-6951 FAX: 1-650-359-6437
 Email: info@rksf.org URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
 TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
 TEL: 1-773-842-5654
 Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
 POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
 Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
 TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437
 Email: info@rkina.org URL: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
 (Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA
 TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745
 Email: dharmasanantonio@gmail.com
 URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
 TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261
 Email: rkseattlewashington@gmail.com
 URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
 Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

Risho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Risho Kosei-kai South Asia Division

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Risho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Risho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Risho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Risho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Risho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Risho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Risho Kosei-kai of Singapore

Risho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Risho Kosei-kai International of South Asia

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Risho Kosei-kai of Bangkok

Thai Risho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairisho@gmail.com

Risho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Risho Kosei-kai of Polonnaruwa

Risho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Risho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Risho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Risho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Risho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Risho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Risho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Risho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Risho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Risho Kosei-kai Friends in Shanghai

Risho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia
TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Risho Kosei-kai of Erdenet

2F Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum,
Orkhon province, Mongolia

Risho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Risho Kosei-kai of the UK

Risho Kosei-kai of Paris

Risho Kosei-kai of Venezia

Risho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.abc-rk.org>